



Moody's Japan K.K.

NEWS

Contact:

東京
吉澤 進治
アナリスト
ストラクチャード・ファイナンス
ムーディーズ・ジャパン株式会社
お問い合わせ電話番号：03-5408-4100
報道関係者専用番号：03-5408-4110

ニューヨーク
ジアン・フォー
マネージング・ディレクター
ストラクチャード・ファイナンス
ムーディーズ・インベスターズ・サービス
お問い合わせ電話番号：212-553-1653
報道関係者専用番号：212-553-0376

ムーディーズ、日本政策金融公庫の2件の中小企業CLOを格上げ方向で見直し

2010年（平成22年）4月22日、東京、ムーディーズ・インベスターズ・サービスは、日本政策金融公庫（旧中小企業金融公庫）の2件の中小企業CLOを格上げ方向で見直すと発表した。

格付けアクションの詳細は以下の通り。

地域金融機関平成18年9月CLO

優先受益権（法定最終償還日2012年10月15日）

A1を格上げ方向で見直し

前回の格付けアクション：2009年11月13日、A3をA1に格上げ

メザニン受益権（法定最終償還日2012年10月15日）

Ba2を格上げ方向で見直し

前回の格付けアクション：2009年11月13日、B2をBa2に格上げ

地域金融機関平成19年6月CLO

優先受益権（法定最終償還日2013年7月16日）

A3を格上げ方向で見直し

前回の格付けアクション：2010年2月5日、Baa3をA3に格上げ

メザニン受益権（法定最終償還日2013年7月16日）

B1を格上げ方向で見直し

前回の格付けアクション：2010年2月5日、Caa3をB1に格上げ

これらの証券化取引は、日本政策金融公庫が「買取型」証券化スキームの下で地域金融機関から買い取った中小企業向け貸付債権、並びに日本政策金融公庫自身が「自己型」証券化スキームの下で実行した中小企業向け貸付債権を裏付けとするキャッシュ型CLOである。これらの中小企業向け貸付債権は、当初より証券化することを目的として実行されたものである。

今回の格付けアクションは、最近のデフォルト発生がムーディーズの想定を下回っていること、及び優先及びメザニン受益権の元本償還が進んだことを背景に、各受益権の信用補完比率が改善され、それぞれの格付けが引き上げられる可能性が高まったことを反映したものである。

2010年4月に、ムーディーズが受領した最新の回収状況報告書及び信託財産状況報告書によると、2010年1月-3月期における本キャッシュ型CLOシリーズ6取引合計のデフォルト発生は2件/24百万円（いずれも平成19年6月CLO）であり、ムーディーズのこれまでの想定を下回る結果であった。

今回見直し対象の2取引を含め、本シリーズ6取引の新規延滞発生は継続しており、ムーディーズは今後の格付けに与える影響を慎重に見極める必要があると考えている。現時点において、平成18年9月CLO及び平成19年6月CLOの2取引に関しては、その影響を考慮しても、信用補完比率の改善の効果が大きく、優先及びメザニン受益権の格付けが引き上げられる可能性が高いものと判断している。

ムーディーズは、今後数週間程度を目途に詳細なデータ分析を進め、上記デフォルト推移や延滞動向を考慮した上で、各取引の期待デフォルト率を見直す予定である。期待デフォルト率は、デフォルト推移や延滞動向に加え、マクロ経済環境、中小企業を取り巻く事業環境や資金繰り環境を踏まえて決定される。

本取引の格付けに利用された主な格付け手法は、“Japan’s SME CDOs: Focal Points in Rating Analysis and Monitoring”であり、www.moodys.comのResearch & Ratingsディレクトリ、Rating Methodologiesサブディレクトリで閲覧することができる（なお、当該格付け手法の日本語版「日本の中小企業CDO：格付け分析における留意点とモニタリング実務」（2009年2月）は、www.moodys.co.jpの「格付け手法」、「ストラクチャード・ファイナンス」で閲覧することができる）。また、格付けの過程で考慮された他の格付け手法及び要因もRating Methodologiesサブディレクトリで閲覧することができる。

ムーディーズ・インベスターズ・サービスは格付けの意見およびリサーチを出版する会社である。証券の募集・販売、あるいは募集を行う会社の代理業務を行うことはない。また、このプレス・リリースは証券の購入、保有、または売却を勧誘・推奨するものではない。

以上